

岩船地区租税教育推進協議会長賞

『税金から未来の日本を考える』

新潟県立村上中等教育学校 3年

馬場 あすか さん

所得税、法人税、相続税、住民税、自動車税など税金には沢山の種類があります。私は税と聞いて真っ先に消費税を思い浮かべます。友達と遊んでいて一緒に昼食を食べたり、お菓子を買ったりするとき、学校で使う文房具を買うとき、書店で新たに登場した漫画や本を買うとき、学生である私達も消費税を購入したものの値段に上乗せしてお店に支払っています。

昨年十月、消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられました。大切なお金が、手元からどんどん無くなってしまおうように感じショックでした。消費税は最初税率三パーセントでしたが少しずつ引き上げられていき今では十パーセントまで割合が大きくなりました。あと、二、三年したらまた引き上げられたりするのだろうか、自分が働くようになったとき日本はどうなっているのだろうか、漠然とした未来への不安を感じました。そういえば、税金ってどのように使われているのだろうか、ふと疑問に思いました。

その事をきっかけに、税金の仕組みについて興味を持つようになりました。私達一人、一人から集められたお金は、みんなで使う公共の施設の建築費や、道路の整備費、生活が困難な高齢者や、障がいを持つ人々のため、思うように働くことができず、収入が不安定な人々を支援するお金、また、地震や水害な

どで被災し家や仕事を失ってしまった人々を助けるお金として使われています。そして、私が学校で使っている教科書、机や椅子なども税金が使われていることを知りました。お店で支払った数十円の税金も、自分のもとに帰ってきていたり、誰かのために役立っていたりしていると思うとほんの少し社会のために貢献できているように感じ嬉しくなりました。税金は人々に安心・安全・学び・笑顔を届ける大切なものであることを知りました。

そして、新たな疑問が浮かびました。それは、なぜ消費税が段々と引き上げられているのかです。私は気になり父に質問しました。父は年金や医療などの社会保障を維持するためのお金が必要だからと教えてくれました。その他にも、日本は多額の借金を抱えている状態にあるためそれを打開しなければならないということも教えてもらいました。消費税の増税は負担を全世代で分かち合うための手段なんだと知りました。

今、日本は少子高齢化という大きな問題に直面しています。私達が大人になる頃には、ますます税金の負担が大きくなると予想されます。いやだと思っても多いかもしれません。しかし、私はそう思いません。なぜなら、今、学校に行き勉強できているのは沢山の大人の方が税金を納めてくださっているからです。次は私達が社会を支える番です。

そして、次の世代、また次の世代に引き継がなければなりません。私達は日本をより良い国にするために税金を納める義務があるのです。

